

出張報告届

2025年 9月2日

吹田市議会議長様

会派名 市民と歩む議員の会

代表者氏名 梶川 文代

出張者氏名五十川 有香.....

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	ハピネス福知山（京都府福知山市）
期間	2025年 8月 18日から 8月18日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	



【出張報告】 関西若手議員の会 in 福知山市

【内容】

自治基本条例と住民自治の今後のあり方について

：富野 暉一郎さん(龍谷大学、福知山公立大学名誉教授)、

セッション 福知山市議会議員 小松遼太さん、洲本市議会議員 木戸隆一郎さん

トークセッション議員討論『未来を創るカラフルトーク』教育編

：関西若手議員の会メンバー (政策調査部会)

【所感】

富野先生のお話からは、「自治」の重要性と必要性を改めて学びました。

先生が自治基本条例にこだわってきた理由の一つは、幼少期に父親との会話で「なんで戦争を止められなかったのか」という話をしたら、すでに戦争を止められない状況だったと言われた。その時に、自分は必ず止めたい。という思いが強かった。と話されていました。

また、天文学を学ぶ中で、環境への関心が強くなった。そんな中で、自身の地域に池子米軍住宅建設がされるという話があり、父と話していた当時を思いだして全力で反対運動を実施した。その後、「緑・平和・自治」の3点を公約にして市長選に出て当選をしたが、その後も当該事案については国(国益)との対立が進んだ。国の対策等もちろん必要ですが、その地域の方々の政策を打ち出していくのが太であり、地方政府であるべきだ!ということを感じていた。ちょうど、地方分権一括法の時期でもあったことから、自分達のまちの憲法を自分達が作っていく必要があるということ強く思い、「地域は相対的に独立な意思決定をする主体である。」ということが大事という動きに共感した(「いわゆる地方主権」)。と言われていました。

これらの先生のお話は、まさに、私自身もいつも思っていることで、「国から言われたから。とか、一部の方が決めてそれを住民に説明する」ではなく、「それらに関わる市民の声をまずは聞いて対話を繰り返し関係者に理解を求めて実現していく」という体制づくりと自治の視点からのチェック体制が非常に大事だと思いました。

また、自治基本条例を見直すのであれば、まずは自分たちの生活の中から見直す必要がある。とのお言葉もおっしゃる通りで、行政の方々が、「見直し時期が来たら見直さない!」という事務的にするのではなく、まずは、その思いを共有することが大切であるというところに、住民自治の本質が問われていると思った。また、逗子市長の時の国益との対立等の話から公益同士が争うことはあっても自治体としてできることを貫くことが大事だと言われていました。例えば、地方自治法上にある「国地方係争処理委員会」なども活用してしっかりと第三者的に評価をしていくことも必要だというお話は、自治体としての団体自治を実現するためにも非常に大事なことだと思いました。(ex ふるさと納税等)先生が実際に逗子市でされていた「自治」に沿った政策展開についてももっと知りたいと思いました。

「未来を創るカラフルトーク」では、子どもたちの学びのデジタル化を進めるべきかどうか。についての賛成派の討論と反対派の討論がなされていました。(早めに帰る必要があったのでオンラインにて途中から視聴)結論的にどちらに共感者が多いか。といったようなジャッジというよりも両者の主張の後に会場含めてさまざまな考えをもとに自由討議がされていました。このようなことは本来の議会内での委員会協議などにおいても活用できる内容になるのではないかと今後の企画にも期待をしたいと思います。